

子釜山間ニ海底線ヲ沈布スルニ方リ朝鮮政府ト締約スルニ若シ同國ニシテ其國內ニ電線ヲ架設スルトキハ外國ノ電報ハ釜山日本電信局ト通聯シテ此海線ノ利益ヲ保護スヘキコトヲ以テセリ然ルニ其後同國ハ支那政府ト結約シ仁川ヨリ京城ヲ經テ義州ニ至ルノ電線ヲ架設セシヲ以テ我政府ハ朝鮮政府ニ照會スル所アリ同政府モ亦此舉ノ非理ナルコトヲ悟リ終ニ京城ヨリ釜山ニ至ル電線ヲ架設シ同所ニ電報局ヲ設ケ日本電信局ニ通聯シ當年七月九日其業ヲ開ケリ而シテ此取扱ハ一ニ萬國電信取扱手續ニ依ラサルヘカラス就中電報料金賠償還及其計算調査等ハ頗ル繁雜ナル事務ナルモ同國ハ未タ是等ノ事務ヲ詳悉セス且ツ同國ハ未タ萬國電信條約ニ加盟セス本邦ノ媒介ヲ以テ通信スルモノナルヲ以テ其萬國ニ對スル責ハ本邦之ニ任セサルヘカラサルノ實アリ因テ八月中外信局次長中野宗宏ヲ釜山ニ派シ同國官吏ト會同シテ萬國電信取扱細節七箇條ヲ商議シ朝鮮ノ發信ニシテ釜山長崎ヲ經由スル萬國電信ハ本邦其媒介者トナリ通信料ニ變動ヲ生シ或ハ聯合國中ニ於テ料金ヲ改正スル等ノ事アルトキハ本邦ヨリ之ヲ告知シ日計及月計表ヲ製シテ料金ノ授受ヲ明ニシ又本邦朝鮮兩國間ニ往復スル局報ハ英語ヲ用井各國ニ交渉スル文書ハ英語若クハ佛語ヲ用

井而シテ其文書ニハ陽曆ヲ用フル等ノ事項ヲ約定シ始メテ萬國通信事務ヲ整理シ得ルニ至レリ交通未開ナル朝鮮國ヲシテ將來萬國交通ノ便益ヲ享ケシムルモノ實ニ此ニ在リト謂フヘキナリ

電信犯罪

當年中ニ處斷セラレタル電信犯罪人ハ左表ノ如シ

電信犯罪	
種類	人員
電報遺失	一
電報送達妨害	四
電線切斷	一四
電氣不通	一〇
種類	人員
海底電線禁制域内ニ船舶擱泊	電柱毀損
總計	三一

通信技術

當年中三等電信局ノ組織ヲ改更シタルヲ以テ前年定ムル所ノ電信技術見習生取扱規則ヲ廢止シ更ニ電信技術傳習生取扱概則并ニ終業試驗手續ヲ制定シ傳習生三十七名ヲ募集シ便宜ノ郵便電信局及電信局ニ於テ之ヲ養

成シ同年中ニ卒業セル者已ニ二名ヲ得タリ又東京大阪間ノ音信ハ常ニ輻湊シテ往々遅延ヲ免レサルヲ以テ自動機設置ノ計畫ヲナシ東京在勤ノ技手八名ヲ擇ミ東京電信學校ニ就キテ之ヲ練習セシム又各電信局所ニ於テ使用セル通信機械ノ年末現數ハ左表ノ如シ

通信機械(現用)

種 類		個	數	種 類		個	數
モ ー ル ス 印 字 機	電 話 機		四 六 六	直 接 印 字 機			四 七
印 字 機			一 四	ホ イ ー ト ス ト ン 受 信 機			一
			二	總 計			五 三 九

電機製造及試験

當年中電機ノ製造及試験ニ關シテ特ニ登載スヘキモノハ電信用繼電器及電話器等トス從來本邦ニ於テ使用スル繼電器ハ「シーメンス」有極形ナレトモ該器ハ主トシテ硬鐵磁石ヨリ組成セルヲ以テ磁氣情勢ナ有シ感度敏捷ナラスシテ大ニ通信ノ遲速ニ關ス因テ其構造ヲ改メ一種ノ新式ヲ造リ之ヲ試験セシニ其感度「シーメンス」形ニ優ルノミナラス構造簡易ニシテ價額

モ亦低廉ナリ

電話機ハ前年「ベルトン」形及「アーデル」形ニ改造シ稍面目ヲ革メタリト雖モ前者ハ感度一定ナラス後者ハ特種ノ電池ヲ使用スルニアラサレハ談話明瞭ナラスシテ實際上ニ便ナラス因テ更ニ「ガーベル」形ヲ製セシニ彼有名ナル「シーメンス」製ニ讓ラス且ツ電池ニ一定ノ制限ヲ要セサルノ便アリ但シ其ノ受話機ハ一時「エザソン」形ニ附屬セル耳形磁石ニ倣ヒテ製造セシモ彼「シーメンス」形受話機ニ及ハサル所アルヲ以テ漸次之ヲ改造セントス前年中内國產出ノ銅ヲ以テ青銅線及硬銅線ヲ製造シ之ヲ試験セシニ青銅線ハ未タ充分ノ徵候ヲ見カレトモ硬銅線ハ沍寒酷暑ニ暴露スルモ猶ホ伸縮斷絶ノ虞ナキヲ實驗セリ以テ漸次鐵ノ輸入ヲ防クノ功ヲ就スヲ得ヘシ又此硬銅往復線ヲ以テ交叉法ニ依リ遠距離ノ電話ニ試用シタルニ雷ニ通話ニ支障ナキノミナラス同時ニ電信電話ノ雙信ニ供スルコトヲ得此成績ヲ得ルニ及ヒ漸ク從來通常ノ鐵線ト通常ノ架設法トニ於テ困難ヲ極メシ誘導電氣ノ障礙ヲ避クルヲ得タリ爾來更ニ器械ニ改良ヲ加ヘ白耳義國ヨリ新購シタル所ノモノト比較スルモ亦其優等ナルヲ見タリ又同年中ニ於テ碍子ヲ試験シタルモノハ五萬七千二百二十七個ニシテ其不